



交通安全ニュース

(一社) 滋賀県トラック協会 安全環境委員会

令和 6年 9月

第162号

令和6年秋の全国交通安全運動実施

令和6年9月21日(土)から30日(月)までの10日間

～ 交通事故死ゼロを目指す日 令和6年9月30日(月)～

重点

1. 反射材用品等の着用推進や安全な横断方法の実践等による歩行者の交通事故防止
2. 夕暮れ時以降の早めのライト点灯やハイビームの活用促進と飲酒運転等の根絶
3. 自転車・特定小型原動機付自転車利用時のヘルメット着用と交通ルール遵守の徹底
4. 横断歩道利用者ファースト運動の推進(滋賀県重点)

- 夕暮れ時から夜間における死亡事故の特徴(日の入り後1時間における横断中の死亡事故が多いなど)から、自動車前照灯の早めの点灯や対向車や先行車がない状況におけるハイビームの活用などドライバーに夕暮れ時以降の運転時の注意喚起を促すようにしましょう。
- 交通ルールの遵守と歩行者や他の車両に対する「思いやり・ゆずり合い」の気持ちを持ち、特に運転中のスマートフォン等の使用や注視の危険性を理解しましょう。
- 「飲酒運転を絶対にしない、させない」という「飲酒運転を許さない社会環境」を醸成し、運転者に対するアルコール検知器を用いた酒気帯びの有無の確認等、業務に使用する自動車の使用者等における義務の遵守を徹底させましょう。
- 妨害運転等の悪質・危険な運転を防止するため、「思いやり・ゆずり合い」の気持ちを持った運転、ドライブレコーダーの普及促進に努めましょう。
- 子どもや高齢者を見かけたら、徐行または一時停止するなど、その行動に十分気を付けて運転しましょう。自分の運転特性を認識し、飛び出し等があるかもしれないという意識を持って防衛運転をしましょう。「ゾーン30」では、歩行者や自転車の安全な通行を確保するため交通安全対策です。速度を守り、通り抜けはやめましょう。
- 妨害運転は、重大な交通事故につながる悪質・危険な行為です。車を運転するときは、周りの車の動きなどに注意し、安全な速度での運転を心掛け、十分な車間距離を保ち無理な進路変更や追越し等は絶対にやめましょう。



車間詰めすぎ…「ドッカン!!」

NEXCO中日本 東京支社は【渋滞最後尾での玉突き事故】というタイトルで、注意喚起を行う内容の投稿をXに行うとともに目を引く動画を公開しました。トンネル内を連なって走るトラックが前方の渋滞に気づき、次々とブレーキをかけ減速するなか、最後尾にいた4軸8輪の大型トラックが止まりきれず、前方を走るトラックに追突。この衝撃で、追突されたトラックもさらに前方を走っていたトラックに追突し、多重の衝突事故を起こしています。

並走するハイウェイパトロールカーの眼前で起きた玉突き事故で、その危険性と十分な車間距離を保つ重要性が理解できるものでした。

NEXCO中日本によると、渋滞最後尾での追突事故は、車間距離が不十分であることが要因として挙げられるそうです。今回の投稿でも、「高速道路では特に、急な速度低下や渋滞最後尾に対応できる、安全で十分な車間距離を保持して走行してください」と訴えています。



動画QR



高速しが

令和6年
(2024)
9月号

発行 滋賀県高速道路交通警察隊：滋賀県高速道路交通安全協議会

秋の全国交通安全運動

9月21日(土)から9月30日(月)まで

1 反射材用品等の着用推進や安全な横断方法の実践等による歩行者の交通事故防止

- ・歩行者は、道路を横断するときは横断歩道を利用しましょう。
- ・夕暮れ時や夜間の外出は、反射材用品、ライト、明るい色の服を着用しましょう。
- ・子供や高齢者を見かけたときは、飛び出しを予測し徐行しましょう。



2 夕暮れ時以降の早めのライト点灯やハイビームの活用促進と飲酒運転等の根絶

- ・夕暮れ時や夜間は、歩行者や自転車などの発見が遅れます。道路状況に応じた速度で運転し、対向車や前走車がないときはハイビームで運転しましょう。
- ・飲酒運転による交通事故が後を絶ちません。飲酒運転は「しない、させない、ゆるさない」ために地域全体で根絶させましょう。



3 自転車・特定小型原動機付自転車利用時のヘルメット着用と交通ルール遵守の徹底

- ・自転車・特定小型原動機付自転車に乗るときは、ヘルメットをかぶりましょう。
- ・自転車は車両の仲間です。交通ルールを守り、安全運転に心がけましょう。



4 横断歩道利用者ファースト運動の推進（滋賀県重点）

- ・横断歩道は「歩行者優先！」です。
- ・信号機のない横断歩道では、歩行者が横断しようとしているときは、必ず横断歩道手前で一時停止し、歩行者に道を譲りましょう。



《居眠り運転の防止対策》

●良質の睡眠を確保する

良質の睡眠を確保することが、居眠り運転防止の基本となります。日頃から十分な睡眠を取り、健康な生活を送るよう自己管理に努めましょう。

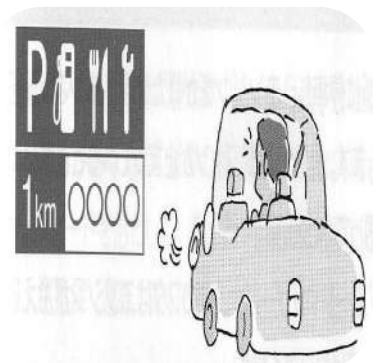


●運転の単調さを変える

居眠り防止には、窓を開けて車内の空気を入れ換えるとともに、ガムをかんだり、目を意識的に動かして運転の単調さを解消するなど、自分に適した眠気防止対策をしましょう。

●眠気を感じたら無理せず休憩

眠気を感じたときは無理せず早めにSA・PA等安全な場所に止めて、休憩や仮眠を取ることが最良の対策です。居眠り運転のリスクが高まる連続運転の後半や、深夜の時間帯にはこまめに休憩して疲労回復に努めましょう。



リフレッシュして安全運転を

重大事故につながる「居眠り運転」は、長時間の運転や交通量が少ない高速道路での単調な運転などにより陥りやすくなります。

- ・出発してから30分前後の地点
- ・目的地まであと30分足らずの地点

は、特に注意が必要です。

